



佐藤クリスタル

国際交流員コーナー

CIR's Corner

2023年1月 第8号



皆さん、こんにちは！江別市国際交流員の佐藤クリスタルです。「国際交流員コーナー」とは、私が毎月作成する国際交流や多文化についての記事です。様々な興味深い国際的なテーマを紹介します。

今月のテーマ:あけましておめでとうございます!

皆さん、あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

2023年初の国際交流員コーナーで、様々な大晦日とお正月の習慣を紹介します。

アメリカ

アメリカ人はカウントダウンパーティーで年越しを祝います。一番有名なカウントダウンパーティーはニューヨーク市のタイムズスクエアで開催されます。このイベントは1907年12月31日から、第二次世界大戦の時を除き、毎年行っています。毎年100万人以上が参加し、テレビ視聴者が2000万人以上います。



タイムズスクエアのカウントダウンパーティーは31日18時頃の開会式で始まります。風船とパーティーハットが参加者に配られます。零時になるまで、人気歌手が続々演奏し、そのパフォーマンスが全国で放送されます。23時55分に、ジョン・レノンの「イマジン」を歌います。その後、23時59分から、カウントダウンの時間になります。ワン・タイムスクエアという

超高層ビルの上から、照らされている巨大なボールをカウントダウンと合わせてゆっくり下ろします。ボールの直径は約3.7mで、3万個以上のLEDライトが付いています。ボールが約23mの旗竿の下に到着する時間にちょうど零時になり、その瞬間に、ビルの上で花火があがり、1400kgの紙吹雪がタイムズスクエアに飛ばされます。その紙吹雪に人々の新年の抱負が書いてあります。スコットランドの民謡の「オールド・ラング・サイン」やフランク・シナトラが歌うニューヨークを代表する「ニューヨーク・ニューヨーク」などの曲が流れます。参加者がワイワイ騒ぎ、恋人とキスをします。パーティーが終わったら、約200人のゴミ収集作業員が落ちているゴミや紙吹雪を拾い、朝になるまでにタイムズスクエアを元の状態に戻します。



2013年に夫と一緒にニューヨークで年越しを過ごしました。午前中にタイムズスクエアを尋ねてみた時、会場はまだ準備中でしたが、カウントダウンパーティーに参加する目的の人々はすでに待っていました。



た。会場には食べ物やトイレがなく、人混みで自由に動けないのに加え、ものすごく寒かったので、私達は

参加しないことにしました。中華街にあるホテルに戻り、美味しい中華料理を食べ、テレビでタイムズスクエアのカウントダウンパーティーを見ました。ニューヨーク出身者も31日はタイムズスクエアを避け、テレビでカウントダウンを見るらしいです。

アメリカ出身の ALT、シェルビー・ブラウン先生は大晦日の過ごし方について教えてくれました。アメリカにいた時は、遅くまで起きていて、タイムズスクエアのカウントダウンをテレビで見えていましたが、日本に来てから、友達の家で過ごすようになりました。ゲームをしたり、食べ物を食べたりしています。そして、小さい子どもが2人いるので、いつも通り早く寝ることにしています。新年の抱負は決めません。

スコットランド

スコットランド出身の ALT、ロス・サザーランド先生はスコットランドの年越しについて教えてくれました。スコットランドでは、大晦日を「ホグマネイ」と言います。ホグマネイに「ファースト・フットイング」という習慣があります。「年明けに初めて家に足を踏み入れる」という意味です。スコットランド人は、零時になってから近所や友達の家に入ることで、その家の一年間の幸運を招くことができると信じています。身長が高く、黒い髪のハンサムな男性が年明けに最初に家に入ってきたら、特にラッキーな一年になるそうです。ファースト・フットイングに行く際、塩、石炭、ショートブレッド、ブラックバンというフルーツケーキ、ウイスキーなどの伝統的なプレゼントを用意します。このプレゼントには、家が暖かく、食べ物が沢山あるようにという願いを込めています。



ファースト・フットイングに加え、他の国と同じように、花火、パーティー、お酒を楽しみます。路上ライブでとても賑やかな雰囲気になっています。

前にも紹介しましたが、年越しの名曲「オールド・ラング・サイン」は、スコットランドの民謡です。日本では、この曲は店の閉店時間直前に流れる「蛍の光」ですが、歌詞の意味は原曲と違います。初めて日本の店で聞いた時、ハッピーニューイヤーの気分になりました。

リトアニア



リトアニア出身の ALT、ジュリアス・ジリンスカス先生は子どもの時の大晦日について語ってく

れました。親戚が家に来て、家族で新年を祝っていました。大きな食卓に様々な食べ物が置いてあり、別なテーブルにスイーツを並べていました。クリスマスと違って、食事に関する制限がなく、肉や乳製品などを含んだ料理でも OK でした。子どもたちは大晦日に遅くまで起きていても許されました。ジュリアス先生は、料理を食べながら、従妹たちとテレビを見たり、遊んだりしました。零時の少し前から、皆で外に出て、花火をあげました。そして、外に出ている近所の人に挨拶をし、大人たちは一緒にシャンパンを飲みました。寒くなったら、家の中に戻り、祝い続けました。1月1日は前の日の祝いで疲れていたもので、ゆっくり過ごしました。

オーストラリア

オーストラリア出身の ALT、アンソニー・タータン先生にオーストラリアの大晦日について教えてもらいました。まず、どこにでも花火大会をしています。オーストラリアでは花火大会がそんなに多くないため、いつも大変混んでいます。そして、他の国と同じように、零時まで起きていて、新年の抱負を決めます。南半球は夏なので、オーストラリアの年末年始は暑いです。友達のプールで過ごす大晦日はアンソニー先生の良い思い出だそうです。夜中にプールで泳ぐと、気分が爽やかになると言っていました。

世界の中で、オーストラリアのシドニー市が最も早く新年を迎える主要都市の一つです。シドニー市の年越し花火大会には150万人以上が会場まで足を運び、世界中の人々がテレビで見えています。★



お問合せ先

教育部 生涯学習課 国際交流員
〒067-0074 北海道江別市高砂町 24 番地の 6
Tel:011-381-1049 Fax:011-382-3434